

2012（平成24）年度年報

KAMEDA COLLEGE OF HEALTH SCIENCES

はじめに

平成 24 年 4 月に、数多くの企業、市民、近隣市町村の御支援と協力により亀田医療大学を開学することができ、それから 1 年の月日が経ちました。大学の開学前後の多大な御支援は、ここに一人一人掲げることが出来ませんが、その支援なくしては、この大学発足の実現は、到底できてはいなかったと思います。

おかげさまで、24 年度の終わりを迎えた今日、魅力的で素晴らしい大学の建物は、空高くそびえ、キャンパスには、若さあふれた学生さんたちの笑い声が聞こえて参ります。先輩のいない一期生として、この大学の特色に魅力を感じて入学して来られた学生さんたちには、この 1 年間、相当な御苦労もあったことと思いますが、勇気を出し、1 年目の科目の学びに取り掛かる一方、多くのクラブ活動をはじめ、充実した大学生活を送って来られた姿を拝見することができました。

一方で、昨年 4 月から就任された教員、職員の方々は、こうした一期生の悩みを受け取り、新しい大学の組織や運営に向けて、ご協力いただき、今後の看護学教育の基盤づくりのために尽力して頂きました。開学 1 年目であったにもかかわらず、秋には、地域の人々のサポートもあり、学生を主体とした大変活発な大学祭を開催することができました。

夏から秋にかけては、オープンキャンパス、その後、数回にわたっての入試の実施と続き、本学の大学としての歴史の 1 年が終わりました。これからは、この大学のこうした運営のサイクルに教員の皆様の研究活動も加わり、より活発かつ充実したものとして拡大していくことを願っております。開学と同時に、カリキュラムの展開への挑戦と研究活動を展開していかれた教授の皆様、そして大学の組織・運営に携わられた職員の皆様に深く感謝したいと思います。私は、太平洋に面した南房総の明るいキャンパスで、この大学の教職員や学生全員が立派な大学教育や運営に努力し、今後発展していく姿が目に見えておられます。

この第 1 年目の報告書は、その活動の始まりを報告したもので、決して完璧なものではありませんが、本学の大学事業報告の第一巻として読んでいただければ、幸いに存じます。今後とも本学のご支援をどうかよろしくお願い申し上げます。

平成 25 年 3 月 31 日

亀田医療大学学長 クローズ幸子

目次

1. 沿革
2. 大学の理念
3. 組織・機構
4. 学内行事の概要
5. 教育活動
6. 研究活動
7. 社会貢献
8. 入学者選抜
9. 学生関係
10. 図書館
11. 管理運営
12. 財務
13. 教職員名簿

1. 沿革

平成 21 年	10 月 1 日	学校法人鉄蕉館に大学開設準備室を設置
	11 月 16 日	鴨川市に学校跡地活用地域住民説明会の実施
平成 22 年	2 月 26 日	亀田医療大学設立を応援する会発足
	3 月 24 日	鴨川市議会において土地、建物の無償貸付を可決
	3 月 30 日	房総地域 20 市町村長による千葉県知事に看護系大学の設置に対する財政支援等に関する要望書を提出
	4 月 18 日	地域における医療者育成を考えるシンポジウム 『目指せ 健康長寿 日本一』開催
	5 月 19 日	亀田医療大学（看護学部看護学科）設置のための寄付金募集活動についての寄附行為の変更認可（千葉県知事）
	7 月 1 日・2 日	大学校舎建設に伴い大学近隣地域住民に各戸訪問し説明
平成 23 年	3 月 31 日	亀田医療大学設置認可申請、学校法人鉄蕉館寄附行為変更認可申請について千葉県知事に進達依頼（文部科学大臣）
	5 月 10 日	亀田医療大学校舎建築工事安全祈願祭
	5 月 16 日	校舎等工事着工
	7 月 22 日	看護師学校等指定申請について千葉県知事に進達依頼（文部科学大臣）
	7 月 29 日	学校法人分科会面接審査（文部科学省）
	8 月 22 日	大学設置分科会実地審査
	9 月 12 日	学校法人分科会実地調査
	10 月 24 日	亀田医療大学設置認可、大学設置及び法人所在地変更等の寄附行為変更認可（文部科学大臣）
	10 月 31 日	亀田医療大学看護学部看護学科の看護師学校の指定（平成 24 年 4 月 1 日付け）を受ける（文部科学大臣）
	11 月 9 日	大学設置認可に際し大学近隣地域住民に各戸訪問し資料配布
平成 24 年	3 月 8 日	亀田医療大学校舎建築工事竣工式
	3 月 25 日	亀田医療大学開学記念式典・セレモニー
	4 月 1 日	亀田医療大学看護学部看護学科開学
	4 月 5 日	平成 24 年度亀田医療大学入学式（第 1 期生 85 名）

2. 大学の理念

1) 大学設置の背景

世界に例を見ない長寿化社会を迎えた我が国では、保健・医療・福祉に対する需要は今後さらに多様化していくことが予測される。そのため、高齢化、生活習慣病や慢性疾患を持つ人口の増加、高度医療技術の発達、高度医療を受ける場での人権尊重の必要性など、今日におけるヘルスケアを取り巻く環境の大きな変化に対応できる、教養豊かで実践能力をもつ看護師を始めとする医療者専門教育機関が強く求められている。

実際、本学が位置する千葉県安房二次医療圏（館山市、鴨川市、南房総市、鋸南町）における 65 歳以上の人口は既に 30%を超えており、今後はさらに増加することが見込まれ、地域の医療機関において、こうした高齢化に対応できる看護師の不足は深刻な問題となっている。こうした状況を鑑み、千葉県中・南部の看護師育成のニーズアセスメントを実施した結果、南房総地区における看護の学士課程教育機関の設立は、不可欠な動きであることが実証された。

2) 本学の理念

亀田医療大学は、社会・地域からの医療者教育の要請に応えるため、社会に必要とされる保健医療福祉分野の学術発信拠点として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開できる専門職者の育成を目指している。

本学の理念を「HEART」に集約して表現する。すべての学生が、この理念に集約された特性を持つ教養豊かな社会人、そして医療人として育つことをねらいとするものである。

- H : Humanity (人間への愛と尊厳)
- E : Empowerment (動機付け、個人に内在する力の向上)
- A : Autonomy (自律性と専門性)
- R : Reason (理性)
- T : Team (チーム医療)

「HEART」が意味するものは、学生が幅広く豊かな教養を身に付け、21 世紀を担う一市民として成長し、医療人として、人間への愛と尊厳をもって人々の健康に注目して対象者やその家族に寄り添い、精神的状況や生活環境などを包括的に把握して全人的にサポートする能力を培うことを目指している。また学生が倫理的、理性的に考える力、高い専門性と自律性を持って行動できる看護実践者として育成されて行くこと、そして、益々多様化している今日の保健・医療・福祉サービスの中で、対象者を中心とした質の高い医療を提供するために多職種と協働するチームケアの基本を学ぶことも目指している。亀田医療大学はこうした看護師を育成することが使命であるとともに、社会への貢献のひとつであると考えている。

3) 亀田医療大学の教育目的

看護学部看護学科は以下に述べる特性を持つ人材の育成を目指す。

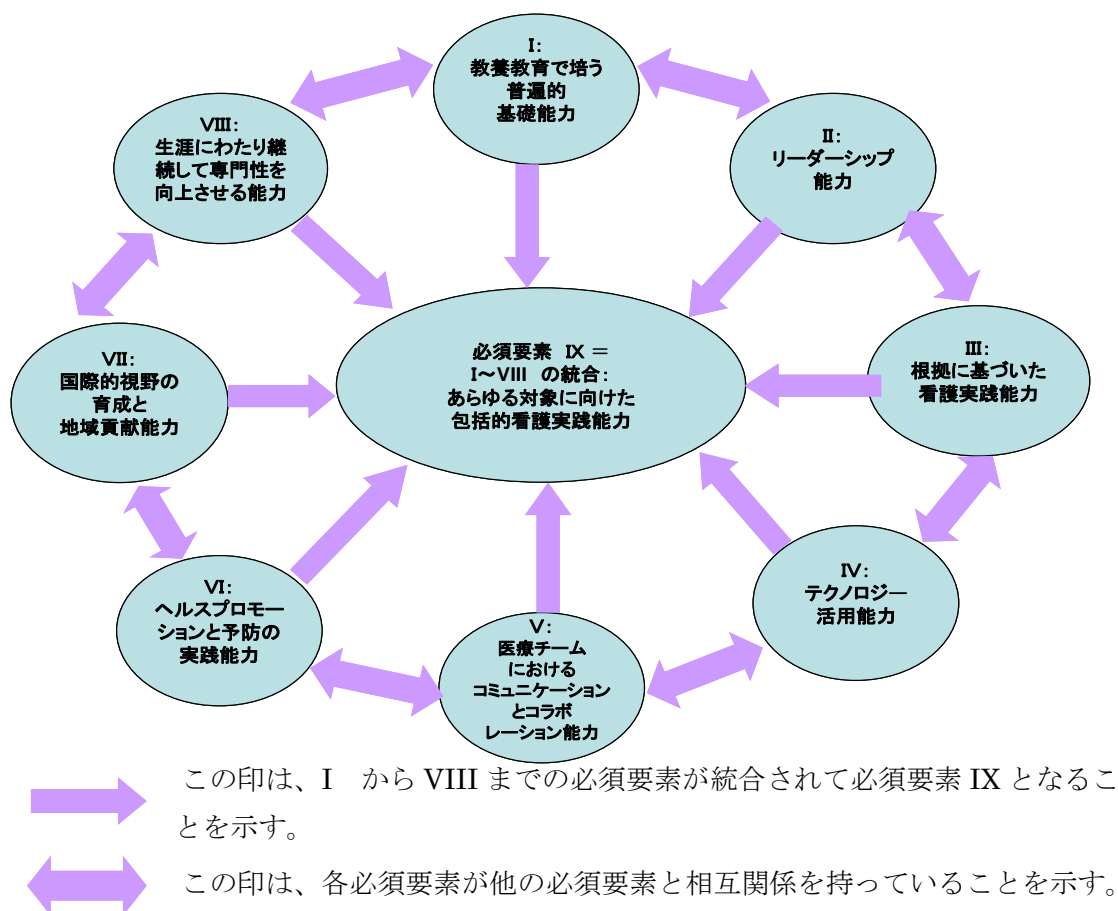
- ① 豊かな教養を身に付け、人への愛と尊厳とケアリングな態度をもって、専門的知識と安全で質の高いヘルスケアが提供できる人材を育成する。
- ② 国際的視野を持って、地域社会の保健、医療、福祉システムを担う医療チームのリーダー及びメンバーとして活動できる人材を育成する。
- ③ 生涯学習の意志を持ち、自己主導性と創造性、そして固定概念にとらわれない柔軟性を持った人材を育成する。

4) 看護学部看護学科の教育目標

本学士課程教育を修了する学生は、卒業時までには看護師の役割を遂行できる知識と技能を修得し、以下の9つの必須要素（以下「必須要素」という。）を不可分統合して実践できることを目指す（図-1）。これらの必須要素は、看護師に関する基準や規則を踏まえて、本学の理念や目指す看護師像についてより具体的に構想した。

卒業時においては、図-1にある9つの必須要素が統合され学生の成果として評価されるため、看護学部のカリキュラムは、これらに含まれる内容を明確にして、授業科目を構成した。

図-1: 学生の成果(到達目標)である9つの必須要素と相互関係



<学生が卒業時の成果として看護実践に統合する必須要素>

本学の学士課程において、9つの必須要素とそれがどのような内容から構成されているかは以下の通りである。

【必須要素Ⅰ：教養教育で培う普遍的基礎能力】

- ・ヒューマンケアリング（対象者を全人的に捉え、愛と尊厳をもった相互関係を形成する）の基本に関する実践能力
- ・汎用的技術（コミュニケーション・人間関係能力、数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考、問題解決力、倫理観、市民としての社会的責任に対応する能力）

【必須要素Ⅱ：質の高いケアを実践するためのリーダーシップ能力】

質の高いヘルスケアの提供を実践するためのリーダーシップ能力を意味する。（システム論、デレゲーション、コーディネーション、コラボレーション、コーチングなど複数のスキルを含む。）

【必須要素Ⅲ：根拠に基づいた看護実践能力】

根拠に基づいた看護実践を展開するため、看護過程をヘルスケアのフレームワークとして捉え、包括的な個人・家族・地域の看護アセスメントをベースに、根拠またはエビデンスに基づいた看護援助技術を適切に行う能力を意味する。

【必須要素Ⅳ：テクノロジーを効果的に活用する能力】

質の高いヘルスケアの提供を実践するために、高度に発展した医療工学やコンピューター、医学や心理学のテクノロジーを理解し、これらを積極的かつ安全に活用する能力を意味する。

【必須要素Ⅴ：多職種から成り立つ医療チームにおけるコミュニケーションとコラボレーション能力】

質の高い安全な医療を提供するため、医療チームの中の一員として効果的なコミュニケーションを取りながらコラボレーションし、エラーの防止・発見・対処を重視した適切な医療サービスの提供に貢献する能力を意味する。

【必須要素Ⅵ：ヘルспロモーションと予防に関する知識と実践能力】

ヘルспロモーション及び予防活動は人々の生涯にわたり健康を支える重要な活動であり、個人、家族、グループ、集団、そして地域へと広く適用される。この基礎知識を有し、対象者の指導を行える能力を意味する。

【必須要素Ⅶ：国際的視野の育成と地域貢献能力】

国際人として広い視野をもちながら、まずは、地域の人々の健康の保持増進や予防活動をもって地域に貢献する能力、いわば、“Think globally, but act locally!” の精神を意味する。

【必須要素Ⅷ：生涯にわたり継続して専門性を向上させる能力】

専門職として生涯学習の志向を持ち、自発的に能力開発が継続できるためのキャリア発達に必要な知識や技術に関する能力を意味する。

【必須要素Ⅸ：あらゆる対象に向けた包括的な看護実践能力】

あらゆる年齢層の個人、家族、集団、そしてコミュニティを対象として、様々な健康状態（健康な状態、急激な健康破綻にある状態、急性期疾患、慢性期疾患）を対象とする看護であり、必須要素ⅠからⅧに含まれる知識、技術、専門職者としての価値観を統合した看護を実践する能力を意味する。対象者中心のケア、相互性、文化的感受性、スピリチュアリティ、ケアの複雑性、グローバルな視点等を統合しながら、包括的なケアを提供する能力を意味する。

5) 本学のカリキュラムの特色

看護学部看護学科（学士課程）は、看護学の学士課程教育を目的とし、広い視野を持ち、人間性豊かな社会人、そして地域、国家、世界に貢献できる実践力の高い看護師の育成を目指す。従って本学の特色として①幅広い教養、②優れた看護実践能力の育成、③国際的視野の育成と地域への貢献の3項目が掲げられる。本学のカリキュラムはこれらの特色を生かした履修モデルのもとで看護教育を展開する。

(1) 幅広い教養

本学の最大の特徴は、まず充実した学士課程カリキュラムによる看護学教育に専念し、人間性豊かで専門職意識の高い看護師の教育を目指すことである。従ってこの4年間のカリキュラムにおいて、教養科目の選択肢を広く設け、看護師としてだけでなく、課題探求能力や創造性の高い一般教養を兼ね備えた人材の育成を目指すとともに、教養科目と専門基礎や専門科目との連携を図ることにより、人間の愛と尊厳を重んじたケアリングな態度を培い、汎用性のある基礎的な能力を持つ看護師の育成を目指している。

さらに、1年次と2年次という早期段階でおこなう基礎ゼミナールⅠ、Ⅱ、Ⅲと3年次から4年次に含まれる研究ゼミナールⅠ、Ⅱは、学生と教員が対話やともに学び語り合う機会をつくり、学生が教養豊かな社会人へと形成されて行くことを目的としている。

(2) 優れた看護実践能力の育成

本学は、地域の基幹病院として充実した機能と実績を持つ亀田総合病院のほか亀田訪問看護ステーション館山、亀田ファミリークリニック館山、亀田関連法人である系列の社会福祉法人太陽会などを実習施設として最大限に活用できることは本学の特色である。

そして、ユニフィケーションの概念を取り入れた教員の実践能力の維持と強化を図り、実習の時だけでなく継続的に教育と臨地の情報交換やエビデンスの提供ができるシステムを構築し運用する。医療現場の実務家と密に連携している教員が学生の指導をおこなうことにより、学生の看護実践経験の蓄積と拡大に力を入れ、学生が一人前の看護師へと形成されてゆく過程に重点を置くことが本学の特色である。

この学習環境は、エビデンスに基づいた安全な看護実践、リーダーシップやコミュニケーション能力の修得が可能であると同時に、チーム医療への参画や専門分野における科目の選択制等をカリキュラムの中に取り入れ、学生の将来のキャリア発達への橋渡しとなることを目指している。

(3) 国際的視野の育成と地域への貢献

看護師の役割を広く捉え、看護師として国際的な広い視野を持ち、地域の人々とともに健康を目指し、予防やヘルスプロモーション活動等の基礎を築くための教養科目や専門科目をカリキュラムに組み込む。

教養科目の中にはコミュニケーション・人間関係論、外国語、文化人類学、国際理解と国際貢献、オルタナティブセラピー（代替医療）、南房総の歴史と未来等の科目を設け、一方専門科目には地域看護学、国際看護学を含む科目を用意した。地域看護学においては、プライマリーヘルスケアと災害看護に注目し、国際看護学においては、学生が外国において異文化やプライマリーヘルスケアの実態、そして他国の看護職の役割等について学ぶ機会を取り入れている。

本学は、こうした学習経験によって、学生が国際的なヘルスケア活動への理解と興味を拡大し、国際的な視野を持つ一方、まずは、“Think Globally, but Act locally（広い視野を持って、まずは身近な地域の活動に携わる）”が語る教訓の中にもあるように、学生に広い視野と深い知識を持って一番身近な地域の人々やヘルスケア環境についての理解を深め、地域に貢献してゆくことの大切さに気づき、行動していくことを目指す。

(4) 本学の特色を生かしたカリキュラムの展開（履修モデル）

看護師の教育に特化した履修モデル（8頁図参照）

このモデルは、亀田医療大学が目指す人材像の育成を目的とした教育課程の履修モデルを説明したものである。このモデルは、看護学の学士課程教育に特化したカリキュラムを描いたものであり、本学の特色と、学士課程において卒業時までには修得すべき学習成果を踏まえた教育課程を示している。

まず、本学の三つの特色、幅広い教養：リベラル・エデュケーション、優れた実践能力の育成、国際的視野の育成と地域貢献を掲げ、そして、卒業時まで身に付けるべき 9 つの必須要素（能力）を掲げた。そして、こうした能力を培うために構想された教育課程を図面の中央に置いた。

- ① 本学の三つの特色は、「幅広い教養」、「優れた実践能力の育成」、そして、「国際的視野の育成と地域貢献」であり、
- ② 9 つの必須要素は、看護師として、そして一市民として卒業時まで修得すべき実践能力である。これらの必須要素は、最初の 8 つの能力の学修が 9 つ目の能力として統合され、卒業時までには、あらゆる看護の場面において包括的な看護実践能力として発揮されることを目指す。
- ③ 上記の①と②を実現するために構想された授業科目とその履修順序を図面の中央の下方から上方に向けた 4 本の太い矢印で示し、学生が一年次より四年次までに履修する科目名を示した。
- ④ 本学の卒業要件は 127 以上の単位取得とし、必修科目は、各年度の矢印のなかの左側に、そして選択科目は、右側に配置している。リベラル・エデュケーションの卒業要件単位 27 単位のうち、9 単位は選択科目とした。年間に履修する科目数は、年次ごとに異なる。臨地実習は、基礎看護実習を 2 年次後期に履修し、その他の臨地実習は 3 年次後期と 4 年次に履修する。看護学の統合は主に 4 年次に履修し、マクロ看護学の科目、たとえば、リーダーシップ看護の統合と実践Ⅱや看護と法律、看護倫理、などを履修することによって看護師としての役割と専門性を身に付ける。また 4 年次には、専門分野において、学生が履修したい領域の科目（2 単位）を選択することが出来る。この履修モデルによると、4 年間で学生は総計 100 単位の講義・演習、そして 27 単位（1,215 時間）の臨地実習を履修する。

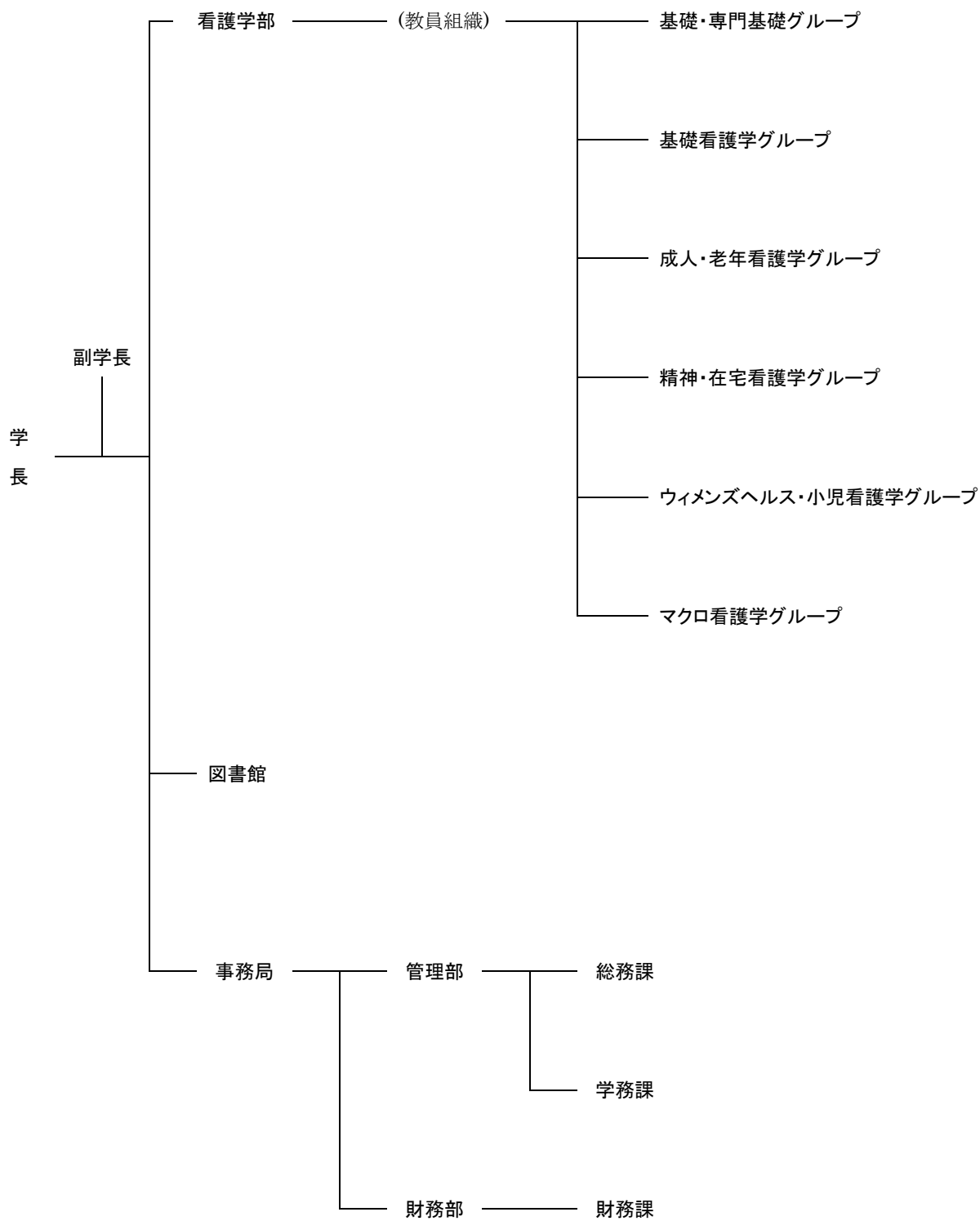
本学の履修モデルは、学士課程教育における学生の学習成果を明確にしている。

履修モデルの上方に「学習成果：卒業時到達目標の修得」を掲げ、学生の 4 年間の教育課程の成果は 9 つの必須要素（能力）を基準として評価する。

3. 組織・機構

亀田医療大学組織図

平成 25 年 3 月 31 日現在



4. 学内行事の概要

1) 学年暦・大学行事

期 日		項 目
平成 24 年 4 月 5 日 (木)		入学式
前 期	4 月 6 日 (金)	新入生オリエンテーション
	4 月 9 日 (月)	授業開始
	4 月 9 日 (月) ~4 月 13 日(金)	履修登録期間
	4 月 16 日 (月) ~4 月 20 日(金)	履修登録確認期間
	5 月 2 日(水)	創立記念日
	6 月 15 日(金)	前期中間定期試験
	7 月 30 日(月)~8 月 1 日(水)	前学期定期試験
	自 8 月 2 日(木) 至 9 月 30 日(日)	夏期休業
	9 月 30 日(日)	前期終了
後 期	10 月 1 日(月)	後期授業開始
	10 月 1 日(月)~10 月 5 日(金)	履修登録期間
	10 月 9 日(月)~10 月 12 日(金)	履修登録確認期間
	11 月 3 日(土)、4 日 (日)	大学祭
	12 月 7 日(金)	後期中間定期試験
	自 12 月 25 日(火) 至 1 月 7 日(金)	冬期休業期間
	2 月 12 日(火)~2 月 15 日(金)	後期定期試験
自 3 月 4 日 (月) 至 3 月 31 日(日)		春期休業

5. 教育活動

1) 教育活動

平成 24 年度は 84 名の 1 期生を迎え、主に看護学の基礎、教養科目及び専門基礎科目を提供した。1 年次前期において、学生はまず、看護とは何か、から始まる「看護学概論」、そして、看護職とその現場を展望する看護の統合と実践―I（序論）と同時に、リベラルエデュケーションの教育視点から、学生が豊かな教養を身に付け、今日の社会の複雑化、多様化、変化に対応するための基礎的能力を培い、社会、科学、文化に関する幅広い知識や、個人の興味を掘り下げて学ぶ教養科目（必須及び選択）を履修した。また後期には、形態と機能、病気の成り立ち、発達心理学などの専門基礎科目や基礎看護技術論など、看護学の基盤となる科目を提供した。こうした科目と並行して、臨床現場を展望するための「アーリーイクスポージャー」や、学士課程教育には欠かせない「アカデミックスキルズ」の修得を少人数のゼミナール形式で履修した。

2) 授業科目の開設

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			授業形態			(選 択 科 目) 履 修 者 数	担当教員名 (代表教員)
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習		
リ ベ ラ ル ・ エ デ ュ ケ ー シ ョ ン	コミュニケーション・人間関係論	1 前	1				○			中村 千賀子
	情報科学	1 前	1				○			岩澤 由子
	文化人類学	1 後	1			○				工藤 由美
	ナラティブ表現法	1 後	1				○			宮本 眞巳・足立 智孝
	医療人文学	1 前		1		○			60	足立 智孝
	哲学	1 後		1		○			39	高梨 俊毅
	心理学	1 後		1		○			83	富安 哲也
	倫理学	1 後		1		○			83	足立 智孝
	音楽鑑賞	1 後		1			○		32	山崎 綾子
	オルターナティブセラピー	1 通		1			○		80	アナグリウスケイ子
外 国 語	English I (日常会話―初級)	1 前	2				○			James Kelly
	English II (日常会話―中級)	1 後	2				○			James Kelly
	中国語 I (日常会話―初級)	1 前		1			○		68	張 莉・呉 海松

リベラル・エデュケーション		中国語Ⅱ(日常会話－中級)	1 後		1			○		60	張 莉・呉 海松		
	環 境		家族社会学	1 後	1			○				米林 喜男	
			社会福祉学	1 後		1		○		61	山谷 秀昭		
			社会学	1 前		1		○		49	米林 喜男		
			経済学	1 前		1		○		16	岡 正生		
			国際理解と国際貢献	1 前	1				○			芝山江美子・水野左敏 ・JOHN C.WOCHER	
	健 康 科 学 Ⅰ		化学	1 前	1			○		○		水野 左敏	
			統計学	1 前		1		○	○		76	片多 史明	
			セルフヘルスプロモーション	1 前	1			○				村永 信吾	
			生物学	1 前	1				○			鈴木 康宣	
			物理学	1 前		1		○		○	11	大野 直次	
			体育	1 通		1				○	79	大澤 有美子・宮本 瑠美	
	ゼ ミ ナ ー ル		基礎ゼミナールⅠ(アーリーイクス ポージャー)	1 前	1				○			深谷 智恵子 ・渡邊 八重子・他	
			基礎ゼミナールⅡ	1 後	1				○			深谷 智恵子 ・新居 富士美・他	
		小計(27科目)		—	15	14	0	—					
	専 門 基 礎 分 野	健 康 科 学 Ⅱ		発達心理学	1 後	2			○				平原 憲道
				人間機能学(形態と機能)	1 後	4			○		○		河野 俊彦・大石 昌也 ・横井 麻理
			人間病態学Ⅰ(病気の成り立ち)	1 後	3			○	○			大石 昌也	
		小計(3科目)		—	9	0	0	—					
専 門 分 野 Ⅰ	基 礎 看 護 学		看護学概論	1 前	2			○				休波 茂子	
			基礎看護技術論	1 後	1			○				休波 茂子	
		小計(2科目)		—	3	0	0	—					
統 合 分 野	看 護 マ ク ロ 学		看護の統合と実践Ⅰ(序論)	1 前	1			○				宮本 眞巳	
		小計(1科目)		—	1	0	0	—					
合計(33科目)			—	28	14	0	—						

3) 授業改善の取組

(1) 教務関連

24年度は、開学1年目ということもあり、さまざまな問題（課題）が生じた。特に非常勤講師による講義・演習などが円滑に進まず、その対応に追われた。また学生は先輩がいないこともあり、授業の態度に問題がみられ、注意を促した。3人掛けの机などによる授業環境にも問題があり、次年度に向けて改善することとした。

平成25年度は、以下のことを課題とする。

- ① 円滑な講義・演習・実験の実施
- ② 学生の単位修得への指導と支援
- ③ 非常勤講師による円滑な授業実施への支援
- ④ 学生の主体的な授業参加への支援（授業態度など）
- ⑤ 進級への支援（2年次進級判定）
- ⑥ 単位不足の学生への指導と支援（チューターとの連携）、FDとの連携による教員の授業への支援

(2) カリキュラム関連

今年度は、開学して1年目であり、大学設置認可申請時に提出したカリキュラムに沿って講義・演習などを行ってきた。その中でいろいろな問題（課題）が明らかになってきた。開学から4年後（平成28年度）のカリキュラムの修正・変更に向けて問題と課題を整理していくこととする。

6. 研究活動

クローズ 幸子

原著論文等

- ・ クローズ幸子 : 「専門性を高めるための看護基礎教育」、保健の科学 第 55 巻 第 2 号、p84-91、2013 年 2 月

研究学会発表

- ・ 内布敦子、別府千恵、クローズ幸子、小松浩子（シンポジスト）：「我が国における高度実践看護師のグランドデザイン：海外において、NP を取得している立場から」、日本看護系学会協議会 第 15 回公開シンポジウム「我が国における高度実践看護師のグランドデザイン」（東京国際フォーラム）、2012 年 12 月 1 日
- ・ クローズ幸子 : “Japanese Doctoral Education at a Crossroad: Initiating a DNP Track as an Early Adopter.”、北里大学大学院 FD ワークショップ、2013 年 3 月 26 日
- ・ クローズ幸子 : 「全人的医療のゴールとなるコンピテンシー」、第 44 回日本医学教育学会大会 日本医学教育学会（慶応義塾大学）、2012 年 7 月 27 日

学会等の役職

- ・ 日本看護系大学協議会高度実践看護学推進委員会委員

深谷 智恵子

学会等の役職

- ・ 日本循環器看護学会監事および学会誌査読員
- ・ 日本クリティカルケア看護学会評議員および学会誌査読員
- ・ 日本救急看護学会学会誌査読員

小幡 光子

研究学会発表

- ・ 服部由佳 磯和勅子 小幡光子 : 「周手術期実習中の学生のストレス反応と情動知能との関連について」、第 32 回日本看護科学学会（東京）、2012 年 12 月 1 日

学会等の役職

- ・ 日本看護系大学協議会
- ・ 専門看護師教育課程認定委員会
- ・ クリティカルケア看護専門分科会委員
- ・ 日本看護科学学会 選挙管理委員会委員

研究助成及び研究活動報告書

- ・ 文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究（C））課題番号 22592441

吉川 一枝

研究学会発表

- ・高橋 泉、吉川一枝、小池伝一：「保育園児の食生活に対する保護者の実践」、第 59 回日本小児保健協会学術集会発表、第 59 回日本小児保健協会学術集会講演集 p 203、2012 年（平成 24 年）9 月 29 日

休波 茂子

原著論文等

- ・山本美紀、村林宏、大森行雄、休波茂子：蛍光色素を用いた口腔内細の可視化と口腔ケア評価の活用に向けて、日本看護研究学会雑誌、34 (3) p 47～53、2012 年

研究学会発表

- ・(共同) 吉田理恵、休波茂子、山本美紀：「所属病棟の診療科別の看護業務におけるリスクテイキング行動の特徴」、第 13 回日本赤十字看護学会学術集会、長野県（駒ヶ根市）、2012 年 6 月 17 日
- ・(共同) 小林順子、山本美紀、休波茂子：「インシデントやアクシデントを経験した看護職者の医療安全に関する学習と個人属性の関連」、第 22 回日本看護研究学会北海道地方学術集会、北海道（旭川市）、2012 年 6 月 2 日
- ・(共同) 小林順子、山本美紀、休波茂子：「インシデントやアクシデントを経験した看護職者の医療安全に関する学習に影響する要因」、第 38 回日本看護研究学会雑誌 p 133、沖縄県（那覇市）、2012 年 7 月 7 日
- ・(単独) 休波茂子：「感染管理認定看護師が認識する感染管理の専門的実践への影響」、第 38 回日本看護研究学会雑誌 p 207、沖縄県（那覇市）、2012 年 7 月 7 日

学会等の役職

- ・日本赤十字看護学会査読委員

研究助成及び研究活動報告書

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究（C））研究課題番号 22592408
新人看護師のリスク感性自己診断表の開発とその応用、山本美紀（研究代表者）、山口佳子（研究分担者）、休波茂子（同）、吉田理恵（同）

米林 喜男

学会等の役職

- ・白山社会学会副会長
- ・日本保健医療社会学会 監事
- ・日本保健医療社会学会国際交流委員会アドバイザー

- ・財団法人日本地域社会研究所評議員
- ・もやいの会運営委員

足立 智孝

著書

- ・ Toshitaka Adachi, Hajime Ide, Nobumich Iwasa, Haruo Kitagawa, Masahide Ohno, Jun Yamada. : “Justice,” *Happiness and Virtue Beyond East and West: Toward a New Global Responsibility* eds. Kevin Ryan, Bernice Lerner, Karen E. Bohlin, Osamu Nakayama, Shujiro Mizuno, Kazunobu Horiuchi. Tuttle Pub. 2012, 60-72
- ・ 足立智孝、井出元、岩佐信道、北川治男、山田順：「正義」『グローバル時代の幸福と社会的責任』、ケヴィン・ライアン、バーニス・ラーナー、カレン・E・ボーリン、中山理、水野修次郎、堀内一史編、麗澤大学出版会、p78 - 96、2012年11月20日

原著論文等

- ・ 足立智孝：「看護と倫理」、精神科看護 39 巻 7 号、2012 年 7 月
- ・ 足立智孝：「エンハンスメント問題の人間学的一考察」、モラロジー研究 69 号、2012 年 8 月
- ・ 足立智孝：「倫理的意思決定のためのナラティブ・アプローチ」、日本看護倫理学会誌 5 巻 1 号、2013 年 3 月

研究学会発表

- ・ (単独) Toshitaka Adachi : “Bioethics Education for Pharmacy Students in Japan: The Educational System and a Model Core Curriculum in the Light of Some Personal Teaching Experience.” Inaugural International Conference on Education in Ethics (Duquesne University, Pittsburgh, PA, USA, May 2, 2012)
- ・ (共同) 川上祐美、空閑厚樹、角田ますみ、足立智孝、河原直人、前川健一、箕岡真子：「自分と他者の延命の可否に関する事由をめぐる一考察」、第 24 回日本生命倫理学会年次大会（立命館大学）2012 年 10 月 26 日
- ・ (単独) 足立智孝：「生命倫理学におけるヒューマニティーズの位置づけ」、第 31 回日本医学哲学倫理学会（金沢大学）2012 年 11 月 17 日
- ・ 吉永真理、小林茂樹、神戸敏江、森田延嘉、井手恵美、田島祐奈、人倉彩子、岩崎拓巳、平林小由利、大愛理歌、松本菜穂子、綾千晶、足立智孝：「ヒューマニズムについて学ぶ：生と死」における 4 年間の学びの実感と自己効力感の関連性」、日本薬学会第 133 年会（パシフィコ横浜）、2013 年 3 月 29 日

学会等の役職

- ・ 日本生命倫理学会 常任理事（事務局長）
- ・ 日本社会薬学会 幹事
- ・ 地球システム倫理学会 評議員

- ・日本医学哲学倫理学会 国際交流委員会委員

研究助成及び研究活動報告書

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究（A））研究課題番号 22242001
理論的基盤と臨床実践とを統合する新しい医療倫理学の方法論についての研究、宮坂道夫（研究代表者）、栗原隆（研究分担者）、細見博志（同）、足立智孝（同）、中田光（同）、田澤立之（同）、後藤清恵（同）、坂井さゆり（同）、山内春夫（同）、鳥谷部真一（同）、甲斐克則（同）
- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究（B））研究課題番号 24390482
看護師に対する倫理サポートのアクションリサーチ、小西恵美子（研究代表者）、八代利香（研究分担者）、山下早苗（同）、前田樹海（同）、鈴木真理子（同）、八尋道子（同）、足立智孝（同）、持留里奈（同）

新居 富士美

研究学会発表

- ・新居富士美：若年性乳癌患者の外来化学療法期間における STAS-J を用いた身体的疼痛の評価、第 23 回日本医学看護学教育学会学術大会 抄録集 p23、2013 年 3 月

大石 昌也

著書

- ・大石昌也、新井寧子、伊藤けい子、梅津亮二、大谷智子、勝海 修、加藤文代、木部則雄、金恵淑、齋藤加代子、清水俊明、杉原茂孝、鈴木恵子、近本裕子、服部元史、原田敬之、松尾真理、松岡尚史、松永 保、宮永嘉隆、村田光範、余田敬子、和田恵美子：『臨床病態学（小児編）』、北村聖総編集、鈴木葉子・本間哲編、NOUVELLE HIROKAWA、分担執筆「新生児疾患」p109-156、2013 年 1 月

学会等の役職

- ・日本未熟児新生児学会評議員

工藤 由美

原著論文等

- ・(共著) Yuji L Tanaka, Yumi Kudo. : Effects of familiar voices on brain activity. *International Journal of Nursing Practice*. 2012, 18 (Suppl. 2), 38-44
- ・(単著) 工藤由美：「先住民組織からケアを描く：チリの首都におけるマプーチェ組織活動の民族誌」、博士論文（千葉大学大学院人文社会科学部研究科）、2013 年 1 月

研究学会発表

- ・(単独) 工藤由美：「当事者たちの一貫性のない態度と人類学者：マプーチェのフィエスタをめぐる」、国立民族学博物館・共同研究（若手）「交錯する態度への民族

誌的接近：連辞符人類学の再考、そしてその先へ」、(大阪 国立民族学博物館)、2012年7月7日

久保 幸代

原著論文等

- ・(共著) Kubo_sachiyo, Adachi Kumiko, Nagasaka Keiko, Komagata Kaori, Okubo Sonomi : Effect of Passive Smoking Maternal and Neonatal Salivary Cotinine Measurements. *Nursing Research*. March/April, 2012

研究助成及び研究活動報告書

- ・平成22年度ファイザーヘルスリサーチ振興財団研究助成金
唾液コチニン測定を用いた乳児の受動喫煙評価、久保幸代、安達久美子、長坂桂子、渋谷紀子

栗栖 千幸

研究学会発表

- ・島吉伸・安酸建二・栗栖千幸：「非財務指標と財務指標の関係に関する実証研究—国立病院データの分析—」、日本管理会計学会 2012 年第 1 回フォーラム (大阪成蹊大学・短期大学)、2012 年 4 月 14 日
- ・栗栖千幸：「わが国の DPC 対象病院におけるコスト情報の利用実態—看護業務特性が病院の業績に与える影響—」、2012 年度第 2 回日本組織会計学会研究会 (国土館大学)、2012 年 10 月 20 日
- ・飯野理恵・宮崎美砂子・石丸美奈・岩瀬靖子・時田礼子・上田修代・杉田由加里・佐藤紀子・土屋裕子・栗栖千幸：「予防活動を持続的に展開するための実践方法の特徴」、第 71 回日本公衆衛生学会総会 (サンルート国際ホテル山口)、2012 年 10 月 25 日
- ・栗栖千幸：「看護業務特性が病院の業績に与える影響—わが国の DPC 対象病院におけるアンケート調査に基づく分析—」、第 32 回日本看護科学学科学術集会 (東京国際フォーラム)、2012 年 11 月 30 日
- ・(単独) 栗栖千幸：「看護業務特性が病院の非財務指標 (患者満足度) に与える影響—国立病院の患者満足度調査に基づく分析—」、小売・サービス研究会 2012 年度第 4 回 (東京大学)、2013 年 3 月 26 日

研究助成及び研究活動報告書

- ・公益財団法人メルコ学術振興財団 研究助成、助成金交付番号研究 2012004 号 2012 年 6 月 18 日交付
看護サービスのマネジメントが病院の業績に及ぼす影響

佐久間 夕美子

原著論文等

- ・(共著) Yumiko Sakuma, Akiyo Sasaki-Otomaru, Sadayo Ishida, Yuka Kanoya, Chiaki Arakawa, Yoshiko Mochizuki, Yukiko Seiishi, Chifumi Sato: Effect of a home-based simple yoga program in child care workers: A randomized controlled trial. *Journal of Alternative and Complementary Medicine*. 2012, 18: 769- 776
- ・(共著) Mayuko Niitsuma, Takeshi Katsuki, Yumiko Sakuma, Chifumi Sato: The relationship between social skills and early resignation in Japanese novice nurses. *Journal of Nursing Management*. 2012, 20: 659-667

研究助成及び研究活動報告書

- ・文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究C）研究課題番号 23500796
PHS を活用した妊産婦への遠隔支援ネットワーク構築に関する研究、佐藤千史（研究代表者）、石田貞代（研究分担者）、望月好子（同）、抜田博子（同）、佐久間夕美子（同）

渡邊 八重子

研究学会発表

- ・(共同) 渡邊八重子・青木和夫：「病棟看護職員の疲労と忙しさに関する研究」、第 56 回日本大学理工学部学術講演会、2012 年 11 月 28 日

7. 社会貢献

- ・ **クローズ幸子** ・ 千葉県立長狭高等学校コミュニテイスクール運営委員会メンバー
 - ・ 学校法人鉄蕉館副理事長
 - ・ 亀田総合病院看護部顧問
 - ・ 千葉大学大学院看護学研究科「フィジカルアセスメント総論」非常勤講師

- ・ **深谷智恵子** ・ 教育教材 DVD の作成：アセスメント事例集『慢性心不全患者の看護事例』（原案・監修）医学映像教育センター
 - ・ 看護における継続教育、南房総地区管内 16 施設の看護職者対象に講演実施
 - ・ 亀田総合病院看護部看護研究研修会講師、看護師 10 名対象に、10 月～3 月まで、毎月 1 日、計 6 日間実施
 - ・ 集中ケア認定看護師看護概論講師（神奈川県立保健福祉大学実践教育センター）

- ・ **小幡光子** ・ 日本看護系大学協議会 看護の質向上委員会委員
 - ・ 日本看護研究学会 査読委員
 - ・ 三重大学大学院 「看護研究法」講師
 - ・ 青森県立保健大学大学院「クリティカルケア看護学」講師

- ・ **休波茂子** ・ レベル 1 研修『看護診断 I』講師、亀田総合病院、5/22、5/25
 - ・ 『看護診断』研修会講師、公立昭和病院、東京都、8/3、9/28、12/7、2/15（計 4 回）

- ・ **米林喜男** ・ 『よい組織とは何か—パーソンズの AGIL 理論とリーダーシップの第 3 の機能—』、新潟医療福祉大学名誉教授就任記念講演（新潟東映ホテル）、2012 年 6 月 20 日
 - ・ 新潟医療福祉大学名誉教授
 - ・ 新潟医療福祉大学非常勤講師
 - ・ 亀田医療技術専門学校非常勤講師

- ・ **足立智孝** ・ 『倫理的意思決定のためのナラティブアプローチ』、日本看護倫理学会第 5 回年次大会教育講演、2012 年 5 月 27 日
 - ・ “Adapting the Teaching of Medical Humanities to a Non-Western Cultural Context,” International Symposium of Medical Education: Medical Humanities and Professionalism (Taipei National Convention Center, Taiwan, June 24, 2012)
 - ・ 『医療現場における倫理を考える—倫理、生命・医療倫理、そして臨床倫理』

- 理一』講師、長野市民病院がん診療公開講座講演会（長野市民病院）、2012年9月6日
- ・『人生の最期をどう支えるか—事前指示と生命倫理—』講師、房総がんケアフォーラム（亀田総合病院）、2013年3月2日
 - ・『行動制限と倫理』講師、亀田総合病院行動制限最小化委員会後期研修会（亀田クリニック）、2013年3月27日
 - ・医療法人鉄蕉会 倫理問題検討委員会委員
 - ・医療法人鉄蕉会 臨床研究審査委員会委員
 - ・ **工藤由美** ・「異文化におけるケアをどう記述するか」、ワークショップ「医療人類学のこれまでとこれから」、（千葉 千葉大学）、2013年2月12日
 - ・ **栗栖千幸** ・「日本の看護サービスのマネジメントが病院の業績に与える影響」、第4回医療経営学ゼミナール（神戸大学学友会大阪クラブ）講演、2012年8月11日
 - ・ **渡邊八重子** ・福島県看護協会 ファーストレベル研修『チーム医療』講師
 - ・ チーム医療普及推進事業『チームステップスで安全文化が変わる』講師
 - ・ **臼井綾子** ・亀田メディカルセンター レベルI研修 看護診断Iでファシリテーターとして参加

8. 入学者選抜

1) 学生募集活動

広報費を一般広告費（看板や交通媒体）から学生に直接アプローチできるもの（学生募集会社のネット・冊子媒体）へウェットを変更し対策を講じた。本年度から本格稼働した顧客管理システムを活用した学校訪問やホームページの充実などにも力を注ぎ展開した。指定校推薦以降は、公募推薦の活用の可能性がある学校も視野にいた追加訪問やガイダンス、個別見学等を実施することにより更なる学生獲得活動を推進した。

本年度の学生募集活動は指定校・公募推薦における評定平均の問題、一般受験におけるセンター試験のみの受験、及び科目数（4科目）の多さなど、入試スタイルにより募集活動が大変難しかった。（訪問先の学校の先生からも2年目の大学としては厳しいという声もあり）結果、臨時策を投入し対応することとなった。入試スタイルの再検討は大きな課題となった。

(1) 学生募集活動

使用媒体社 リクルート、学校広報、フロムページ、進研アド、キッズコーポレーション、マイナビ、ダイヤ書房、その他

(2) 活用媒体

- | | | | |
|---------|-------------------|---------------|--------------------|
| ① ネット媒体 | 進学ネット | 【リクルート】 | |
| | マナビジョン | 【進研アド】 | |
| | 進学の森 | 【キッズコーポレーション】 | |
| | マイナビ進学 | 【マイナビ】 | |
| | キャンパスアサヒ.コム | 【朝日新聞デジタル】 | 等の活用 |
| ② 書籍 | 進学辞典 | 【リクルート】 | 全国版 関東東北版 |
| | 医療教育福祉健康オール学校ガイド | 【日本ドリコム】 | |
| | プロGRESS | 【新宿セミナー】 | |
| | 健康をまもる仕事 | 【教育新聞社】 | |
| | 蛍雪時代 | 【旺文社】 | |
| | 発見ナビ | 【進研アド】 | 関東甲信越版 |
| | テレメール | 【フロムページ】 | |
| | 入試直前激励号 | 【フロムページ】 | 等の活用 |
| ③ その他媒体 | | | |
| | チラシ | DM | 【新宿セミナー】 |
| | 高校設置ハガキ | ウイングボックス | 【ダイヤ書房】 関東東北 631 校 |
| | JR 中吊広告（千葉エリアパック） | | の活用 |

※オープンキャンパス・入試の案内と一緒に実施

等の活用

(3) ガイダンス 学校説明会への参画

① 業者主催ガイダンス

日本ドリコム主催ガイダンス	千葉 新宿 埼玉
昭栄広報主催ガイダンス	館山
さんぼう主催ガイダンス	津田沼 東金
新宿セミナー主催ガイダンス	新宿 千葉 柏 横浜 国立 大宮(春秋)
東京アカデミー主催ガイダンス	津田沼 仙台
ライオン企画主催ガイダンス	原宿 静岡 等

② 安房健康福祉センター主催ガイダンス

看護師確保対策事業における看護師進学ガイダンス
安房高校 長狭高校 安房拓心高校

③ 高校依頼校内説明会

安房拓心高校 勝浦若潮高校
木更津東高校 大原高校

(4) 個別見学対応

オープンキャンパス終了後、本学を視野に入れた学生に対し個別相談見学会を開催し対応した。 ※個別相談 大学見学 実習病院見学を実施

9組(県外6件 県内3件)

(5) 高校訪問の実施

205 高校
宮城県 23 校
福島県 22 校
山形県 16 校
茨城県 17 校
栃木県 6 校
東京都 19 校
千葉県 63 校
埼玉県 13 校
静岡県 8 校
新潟県 8 校

※顧客データを基に資料請求のある高校を中心に訪問

(6) 臨時策

- ① 主要高校再訪問
- ② 予備校塾訪問
- ③ 個別見学対応日の拡大
- ④ FAX 情報提供 対象 全国 5051 校（農業除く）166 看護系予備校
【アローコーポレーション】
- ⑤ ホームページ強化
 - ・公募推薦 一般試験（センター利用）バナー設置
 - ・受験情報画面の設置（PDF から通常画面へ改善）
 - ・2013 年度版住宅情報の更新
- ⑥ 他看護系大学資料請求時に本学がオススメ大学として紹介される設定タグの設置
（千葉県内同等大学+関東近県国立県立看護大学にセット）
- ⑦ センター試験後の新聞解答ページへの連合広告
- ⑧ 『これから出願できる大学』への掲載
- ⑨ 『2月に受験できる大学』への掲載 新宿セミナー紙媒体折り込み広告
- ⑩ JR 中吊広告 掲載延長 12月1月→12月1月2月

2) オープンキャンパス

【開催日と参加者】

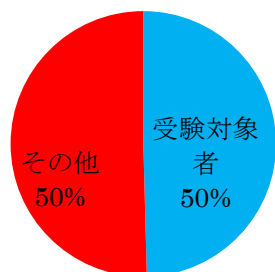
日付	6/30 (土)	7/21 (土)	8/5 (日)	8/21 (火)	8/25 (土)	8/27 (月)	8/28 (火)	9/30 (土)	計 A	(参考) 平成 23 年度計 B (5 回実 施)	対前年度 比 A/B
コース	B	A	B	B	A	B	B	A			
受験対象者	6	42	44	28	62	27	26	30	235	185	127.0%
参加者計	8	75	75	54	100	54	42	66	474	293	161.8%
受験対象者の割合	75.0%	56.0%	58.7%	51.9%	62.0%	50.0%	61.9%	45.5%	49.6%	63.1%	

A コース： 大学内での選択イベント

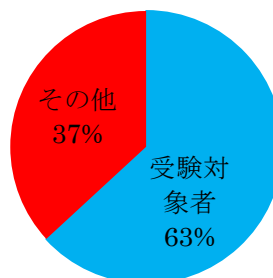
B コース： 実習病院見学

平成24年度参加者内訳

平成 2 3 年度参加者内訳



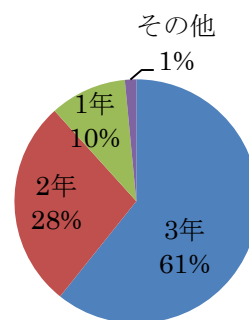
← 24



平成24年度学年別

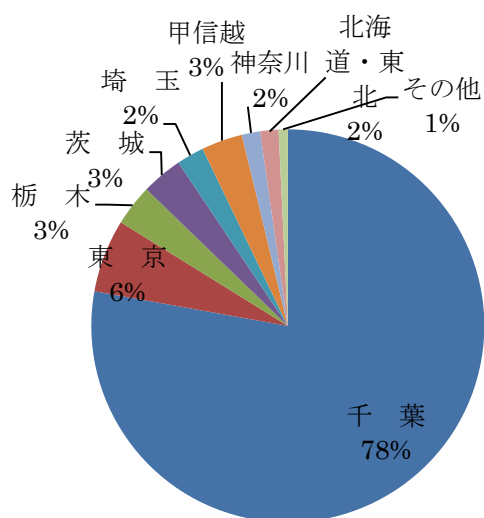
【学年別参加者】

学年	平成24年度		平成23年度(参考)	
	件数	%	件数	%
高校3年	161	60.8%	99	53.0%
高校2年	73	27.5%	46	25.0%
高校1年	27	10.2%	16	7.0%
その他	4	1.5%	25	15.0%
計	265	100.0%	186人	100.0%



【都道府県別参加者】

都道府県	千葉	東京	栃木	茨城	埼玉
件数	207	16	9	9	6
%	78.0%	5.9%	3.4%	3.0%	2.5%
都道府県	静岡	神奈川	長野	北海道	青森
件数	3	4	2	1	1
%	1.3%	0.8%	0.8%	0.4%	0.4%
都道府県	山形	福島	群馬	新潟	石川
件数	1	1	1	1	1
%	0.4%	0.4%	0.4%	0.4%	0.4%
都道府県	山梨	愛知	沖縄	合計	
件数	2	1	1	267	
%	0.4%	0.4%	0.4%	100.0%	



○参考

平成23年度

千葉	東京	神奈川	埼玉	茨城	福島	山形	愛知	その他(青森・京都・香川各)
152	9	6	6	3	3	2	2	3
83.1%	4.9%	3.3%	3.3%	1.6%	1.6%	1.1%	1.1%	1.6%

3) 入学者選抜の概要

看護学部看護学科において、平成25年度入試を実施しました。入試結果は次のとおりである。

	募集 人員	志願者数		受験者数		合格者数		入学者数
		人数	倍率	人数	倍率	人数	倍率	
推薦入試 (指定校含む)	40	35	0.88	35	1.00	35	1.00	35
一般入試Ⅰ期	35	82	2.34	62	0.76	62	0.76	40
一般入試Ⅱ期	5	5	1.00	4	0.80	4	0.80	4
合計	80	122	1.53	101	0.83	101	0.83	79

なお、男女別、現役・その他別、県内外別の結果は次のとおりである。

【男女別】

試験区分	募集 人員	志願者数			受験者数			合格者数			入学者数		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
推薦入試 (指定校含む)	40	5	30	35	5	30	35	5	30	35	5	30	35
一般入試Ⅰ期	35	16	66	82	15	48	63	14	48	62	9	31	40
一般入試Ⅱ期	5	1	4	5	1	4	5	0	4	4	0	4	4
合計	80	22	100	122	21	82	103	19	82	101	14	65	79

【現役・その他別】 ※その他は社会人を含む

試験区分	募集 人員	志願者数			受験者数			合格者数			入学者数		
		現 役	そ の 他	計	現 役	そ の 他	計	現 役	そ の 他	計	現 役	そ の 他	計
推薦入試 (指定校含む)	40	35	0	35	35	0	35	35	0	35	35	0	35
一般入試Ⅰ期	35	74	8	82	59	4	63	59	3	62	39	1	40
一般入試Ⅱ期	5	2	3	5	2	3	5	2	2	4	2	2	4
合計	80	111	11	122	96	7	103	96	5	101	76	3	79

【県内外別】

試験区分	募集人員	志願者数			受験者数			合格者数			入学者数		
		県内	県外	計	県内	県外	計	県内	県外	計	県内	県外	計
推薦入試 (指定校含む)	40	20	15	35	20	15	35	20	15	35	20	15	35
一般入試Ⅰ期	35	50	32	82	42	21	63	41	21	62	30	10	40
一般入試Ⅱ期	5	2	3	5	2	3	5	1	3	4	1	3	4
合計	80	72	50	122	64	39	103	62	39	101	51	28	79

4) 推薦入試

推薦入試における試験科目等の実施内容は次のとおりである。

試験区分	試験科目	試験会場
指定校推薦	①小論文 (60分) ②面接 (個別) (15分)	本学
公募推薦		

5) 一般入試

一般入試における試験科目等の実施内容は次のとおりである。

試験区分	試験科目	試験会場
一般入試Ⅰ期・ 一般入試Ⅱ期 (大学入試センター試験 利用入試)	一次 大学入試センター試験の成績を利用 【選考科目】 ○国語 (近代以降の文章) ○理科 (生物Ⅰ、化学Ⅰ、物理Ⅰから1科目選択) ○数学 (数学Ⅰ・数学A) ○外国語 (英語) 【科目配点】 国語 (100点)、理科 (100点)、数学 (100点) 外国語 (200点を100点換算) 計400点 【注意事項】 ・「国語」: 近代以降の文章のみ利用 ・「理科」: 2科目受験した場合は高得点の科目を合 否判定に利用 ・「外国語 (英語)」: リスニングの成績は利用しない ・前年度以前の大学入試センター試験の利用は行わ ない	本学・東京・仙台 ※仙台は Ⅰ期のみ
	二次 ①小論文 (60分) ②面接 (個別) (10分)	

9. 学生関係

1) 学生定員・在籍状況

看護学部 看護学科

入学定員 80名

在籍学生数 84名（平成25年3月31日現在）

2) 学生の異動状況

看護学部 看護学科 退学者 1名

3) 学生生活

(1) 入学生ガイダンス

平成24年4月6日（金）9時～16時

内容
○教員紹介
○教学関連 教育理念と教育目標 授業科目（シラバス） 履修の概要 授業評価
○学生生活関連 学生生活全般 奨学金 ユニホーム 健康管理 情報の提供と伝達 ハラスメント防止 その他：食堂(仮)の使用、弁当の注文など

(2) 奨学金

奨学金の名称	採用人数
医療法人鉄蕉会奨学金	58
医療法人鉄蕉会修学資金	40
千葉県保健師等修学資金	10
鴨川市看護師等修学資金	3
日本学生支援機構奨学金第一種	5
日本学生支援機構奨学金第二種	19

(3) 住居状況

自宅通学	17
学生専用住宅	33
民間アパート	34

(4) 普通傷害保険・学生生徒総合保険の申請状況

補償タイプ	年間掛金	加入人数
Will 1	3,000 円	1
Will 2	4,500 円	39
Will 3	7,000 円	38
Will 3 DX	9,000 円	6
	合計	84

4) 学生自治会

(1) 役員

役職名	氏名	所属
会長	山田 慧弥	看護学科1年次
副会長	八木 優花	看護学科1年次
副会長	高田 美夏	看護学科1年次
副会長	江本 絵里奈	看護学科1年次
書記	篠塚 美穂	看護学科1年次
書記	島 佑介	看護学科1年次
会計	高尾 和史	看護学科1年次

(2) 部活動

団 体 名	責 任 者	顧 問
弓道部	高尾 和史	佐久間 夕美子
水泳部	江本 絵里奈	深谷 智恵子
Lanakia (バレーボール部)	坂本 羽衣	休波茂子、臼井綾子
サーフィン部	小池 あい	小幡 光子
テニス部	樋口 詩和	工藤 由美
軽音楽部	小林 久記	小幡 光子
吹奏楽部	阿部 美鈴	久保 幸代
亀田 FC(サッカー・フットサル)	高野 雄大郎	久保 幸代
書道サークル	大澤 三咲	足立 智孝
美術サークル	荻原 東	新居 富士美
バスケットボール	武田 修平	渡邊 八重子
卓亀 (卓球)	井上 望	栗栖 千幸
スケートボードサークル	渡辺 凌輔	深谷 智恵子
手話サークル	畠山 優希	大石 昌也
Peer Pauole (ピアパウオレ)	蒲谷 奈緒子	久保 幸代

(3) 学生自治会活動 (大学祭)

大学祭実行員会

役 職 名	氏 名
委員長	久坂 真之
広報	井上 望
会計	熊谷 紗友梨
イベント・食品	林 沙恵

10. 図書館

1) 概要

亀田医療大学 図書館

Institute of Health Sciences Tesshoukan, Kameda College of Health Sciences Library

設備	総面積	748.7 m ² (開架書庫:568.25 m ² 、閉架書庫:58.2 m ²)	
	開架書庫収蔵能力	約 22,000 冊	
	閲覧スペース	70 席	
	グループワーク室	3 室(各 12 席)	
	情報検索コーナー	10 席(PC10 台)	
	AV コーナー	6 席(DVD/VHS プレーヤー6 台)	
	ブラウジングコーナー	7 席	
	その他	書架ベンチ長椅子 4 台、書架椅子 6 席、和スペース 7 畳	
運用	開館時間	平日	9 時～20 時
		土・短縮開館	9 時～17 時
	館長	米林喜男(看護学部基礎:教授)	
協会	日本看護図書館協会 入会	平成 24 年 6 月	
	私立大学図書館協会 加盟	平成 24 年 8 月	

2) 利用者サービス

◇学習支援

名称	開催日	参加者	内容
新入生オリエンテーション	4 月 6 日(金)	1 年生(約 80 名)	利用案内と館内ツアー(約 15 分)
教員オリエンテーション	4 月 9 日(月)	教員(12 名)	利用案内と契約データベース講習(1 時間)
文献検索の基本について	11 月 13 日(火)	1 年生(約 40 名×2 回)	文献検索の基本と医中誌の使い方(約 40 分)

◇図書館システム

NACSIS-CAT 平成 24 年 8 月 参加

NACSIS-ILL 平成 24 年 10 月 参加

◇学外者利用

地域連携・社会貢献の一貫として、学外者利用の運用方法を検討中。

2012年10月から試行的に亀田医療技術専門学校、亀田メディカルセンター所属者を対象に学外利用を開始した。

3) 統計

◇利用統計

開館 日数	入館者数			貸出冊数				ILL(相互利用)		レファ レンス	複写	
	学内	学 外		学生	教職員	学 外		依頼	受付		カラー	白 黒
261	1102 2	12	1103 4	667	210	10	88 7	106	0	74	1060	299 6

※入館者数の学内には見学者も含む。

※学外利用…2012年10月より亀田医療技術専門学校・亀田総合病院所属者対象で暫定運用開始

◇資料統計

		図書			雑誌		新 聞	視 聴 覚	電子ジャーナル		デー タ ベース	
		和書	洋書		和雑 誌	洋雑 誌			和雑 誌	洋雑誌		
今年度	購 入	1791	319	2110	27	3	30	6	91	0	4	5
	寄 贈	865	2	867	2	0	2	1	1	-	-	-
	合 計	2656	321	2977	29	3	32	7	92	0	4	5
前年度	-	4656	518	5174	40	10	50	0	73	0	7	-
総所蔵 数	-	7312	839	8151	69	13	82	7	16 5	0	11	5

※新聞(朝日、読売、日経、千葉日、房日、外房、医学界新聞)

※データベース契約(医中誌、メディカルオンライン、最新看護索引、JDream II、CINAHL)

1 1. 管理運営

1) 教授会

教授会は、学長、教授をもって構成する。なお、教育、研究等に関わる審議事項については、准教授、専任講師及び助教を加えて開催されている。

(1) 教授会

構成員

学長、教授（5名） 列席：事務局

主な審議事項

教員候補者の選考、入学者選抜、大学の管理運営 等

開催状況

20回

第1回	平成24年4月2日(月)	第11回	同年10月25日(木)
第2回	同年4月11日(水)	第12回	同年11月20日(火)
第3回	同年4月25日(水)	第13回	同年11月26日(月)
第4回	同年5月9日(水)	第14回	同年12月13日(木)
第5回	同年5月23日(水)	第15回	同年12月20日(木)
第6回	同年6月13日(水)	第16回	平成25年1月24日(木)
第7回	同年6月27日(水)	第17回	同年2月14日(木)
第8回	同年7月25日(水)	第18回	同年2月20日(水)
第9回	同年9月26日(水)	第19回	同年3月14日(木)
第10回	同年10月11日(木)	第20回	同年3月21日(木)

(2) 拡大教授会

構成員

学長、教授（5名）、准教授（3名）、講師（5名）、助教（1名） 列席：事務局

主な審議状況

教育・研究、教育課程の編成、学生の休学、退学、学生の諸活動及び生活指導、学生の賞罰、学内教育施設 等

開催状況

12回

第1回	平成24年4月11日(水)	第7回	同年10月25日(木)
第2回	同年5月9日(水)	第8回	同年11月15日(木)
第3回	同年6月13日(水)	第9回	同年12月13日(木)
第4回	同年7月11日(水)	第10回	平成25年1月17日(木)
第5回	同年9月12日(水)	第11回	同年2月14日(木)
第6回	同年10月11日(木)	第12回	同年3月14日(木)

(1) 教員選考委員会

構成

各 5 名

会議開催状況

教員選考委員会（小児看護学准教授または講師）	3 回
教員選考委員会（在宅看護学教授または准教授）	4 回
教員選考委員会（成人・老年看護学助教）	3 回
教員選考委員会（成人・老年看護学准教授または講師）	2 回
教員選考委員会（基礎看護学准教授）	2 回

審議状況・活動事項

各領域の教員採用について、公募の決定、募集要項の審議、応募者の選考、学長へ教授会を経て審査結果の報告等を行った。

今後の対応・課題等

選考様式、選考手続きの流れなどは各委員会開催時に検討し、定められたが、今後、応募者に分かりやすく応募しやすい状況を作り、また公正な選考ができるように、更に検討していく必要があると思われる。

(2) 評価委員会

構成

委員長：クローズ 幸子

委員：深谷 智恵子、小幡 光子、吉川 一枝、休波 茂子、米林 喜男、
石川 健二、堀 強

事務担当：瀧口 真穂、平川 弘一

会議開催状況

開催回数：7回

1. 評価委員会規程、役割、亀田医療大学管理運営の方向性を明らかにした。
2. 24年度の目標は、機関別認証評価の検討と決定、授業アンケートの実施、教職員評価システムの構想であった。

審議事項・活動内容

主な審議事項

1. 本学では、大学設置基準により、完成年度までは、大学設置の趣旨に基づいて、「アフターケア」の対象となり、毎年5月に実施状況を報告することになっている
2. 大学は、7年に1回機関別認証評価を受けることが義務づけられているが、本学の評価は完成年度以降となる。機関別評価機構（学位授与機構、大学基準協会、日本高等教育評価機構）のうち、日本高等教育評価機構が私学である本学に最も適していると判断し、この評価機構による第三者評価を取り入れるため、この機構による自己点検評価様式を検討した。
3. 分野別評価システムは、日本看護系大学協議会（JANPU）にて設定されている途中であるが、本学では、JANPUによるものが十分普及するまでは、機関別認証評価の中で、分野別内容を評価することとした。
4. 授業評価アンケート様式を作成し、教授会の議を経て本年度に2回実施した。
5. 教職員評価については、24年度は事業報告の形で教員の業績などを報告することとした。

今後の対応・課題等

今年度は、授業アンケートデータの収集とその結果の活用方法について十分議論されていなかったが、次年度に審議することとされた。

鉄蕉会は、ISO 9001 を評価のフレームワークとしているため、同じグループの位置する評価機関を夫学が取り入れた方がよいのではないかという意見が出たが、本学は、大学の機能にマッチした評価機構を選択することとした。

(3) 入試委員会

構成

委員長：深谷 智恵子

委員：小幡 光子、吉川 一枝、休波 茂子、新居富士美、久保 幸代、
石川 健二

事務担当：碓井 豊一、宮本 聖子

広報：羽田 洋一、小原美乃里

会議開催状況

開催回数：11回

審議事項・活動内容

本学のアドミッションポリシーの下に学生募集に関する広報活動、大学案内、入試要項の作成、入試の実施準備に関する業務を計画的に実施した。

1. 学生募集に関して

指定校入試の導入に当たり、指定校の検討および確定を行った。これに関しては今年度入学生の出身高校を中心に、さらに入学はしていないが受験者があった高校で偏差値の高い高校および近隣の県立高校、計38校(41名)を指定校とした。

指定校に指名した高校の周辺の高校で優秀な学生を出していると思われる高校を訪問し、募集案内を行った。

予備校等で実施される大学ガイドのブースにも教員、事務職員が手分けして参加し受験生に説明と入試案内を行った。入学情報を取り扱う情報誌への掲載、高校の進路指導者への大学案内、学生募集要項の郵送配布等も行った。また、今年度の一般入試はセンター利用入試になるため、本校入学希望者にセンター試験の受験を勧める案内を行った。

2. 入試会場の選定

本学のほかに、東京会場、仙台会場の選定と予約を行った。会場設営マニュアル、担当者業務マニュアル、試験監督者マニュアルの作成を行った。

3. センター入試利用について

センター入試に関する説明会に、教員・事務員が出席し情報を得た。学内のセンター入試担当教員の推薦を行い、千葉大学と共同でセンター入試を実施のため、入試当日4名の教員、1名の事務員を千葉大へ派遣した。

4. 試験実行委員会

入試委員会の専門部会として試験実行委員会を立ち上げ、小論文作成基準、面接

基準に関する検討を行った。学長出席の下、合否判定会議資料の作成、合否判定準備（教授会提出資料）を行った。この委員会に関しては、今年度の入試がすべて終了するまで委員は非開示とした。

小論文出題者の推薦と決定：推薦入試においては、指定校推薦入試、公募推薦入試と小論文2題の作成および予備問題1題の作成、並びに採点を行った。

一般入試においては、I期、II期の小論文2題作成および予備問題1題の作成、並びに採点を行った。

入試問題に関しては、出題者間で複数回の査読、修正を行い入試委員長が取りまとめ、学長の許可のもとに印刷を行い厳重に保管し、試験を実施した。

出題者においては、今年度入試がすべて終了するまで非開示となることを書類をもって伝え秘密を厳守した。

5. センター入試利用および採点結果登録

センター入試の成績を利用するための、コンピュータシステムを導入し、本校が実施する二次試験結果と合算できるように、入試事務が担当しシステムを新設した。

6. 志願者数の低迷

平成24年2月、一般入試I期の志願者数の伸びが悪く、2月8日、理事長、入試委員長、事務局長の3名で、定員割れした場合の可能な対策について文科省高等教育局大学振興課入試室入試第二係長岡田氏、室長補佐佐藤氏にアドバスを受けた。

3月に一般入試II期があるため、その応募状況を見た上で再募集等の対策をとるかどうかを取ることを検討していたが、実際には再募集は行わなかった。

7. 今後の入試について

理事長主催で入試の在り方について、全教員で検討する機会が設けられ、さまざまな案が提案された。

理事長より指定校推薦枠を30名にしたいとの案が提案された。新設大学で指定校30名定員を確保するのは難しいという意見も出されたが、理事長提案で決定した。一般公募推薦に関しては、25年度入試同様の募集枠とし、10名とした。指定校数を100校に増加して募集することとなった。

一般入試I期は、自校出題入試とセンター入試の混合型とし、前者募集定員枠25名、後者募集定員枠10名とした。一般入試II期は、自校出題入試とし、募集定員枠5名とすることで決定した。

試験科目は、現代文、英語は必須、「数学I・数A」の必須を選択とし、「生物I」、「化学I」を含めた3科目から1科目選択と変更した。一般入試I期、II期の二次試験における小論文をなくし、面接のみとした。指定校推薦入試・公募推薦入試は、前回通り、小論文と面接とした。

(4) 図書・情報委員会

構成

委員長：米林 喜男

委員：足立 智孝、新居 富士美、大石 昌也、久保 幸代、佐久間 夕美子、
石川 健二、堀 強、羽田 洋一、小原 美乃里、稲葉 京子、立野 幸子

事務担当：立野 幸子

会議開催状況

月1度の定期開催とし、審議事項がない場合は休会とする。2012年度は11回開催した。

審議事項・活動内容

1. 図書館

- 1) 関係協会やシステムへの参加、運用報告
- 2) 図書館予算報告
- 3) 選書方針、資料購入方法の運用検討

選書担当ミーティング：図書・情報委員会後9回開催（米林、新居、久保、
佐久間、稲葉、立野）

- 4) 他機関、グループ機関の相互利用の運用検討
- 5) 学外者利用の運用検討
- 6) 図書館年間スケジュールについて
- 7) 学習支援体制の検討
- 8) 設備やセキュリティについての改善
- 9) 図書館ホームページについて
- 10) 図書館内コーナー愛称募集から「のどか」という名称を採用
- 11) 「図書館利用規定」、学生便覧「図書館の利用について」掲載文修正確認

2. 広報

- 1) デザイン、印刷会社の選定報告
- 2) 大学パンフレットの制作報告
- 3) 顔写真の広報利用について
- 4) 大学ホームページについて

3. 個人情報

- 1) 個人情報保護についての情報共有、方向性の確認

- 2) 講義資料を共通フォルダに掲載することの問題点と対応検討（著作権）
- 3) 機密文書の廃棄方法について
- 4) 学生便覧「個人情報保護について」掲載文修正確認

今後の対応・課題等

1. 図書館

大学全体の施設管理・セキュリティ方針を踏まえた、図書館の地域開放と地域連携を模索したい。

2. 広報

1) 次年度は図書・情報管理委員会とは切り離れた委員会として活動を予定している。

2) 大学英文案内作成

3. 個人情報

個人情報保護法と法人全体の IT 基盤の関係性を踏まえて、規定試案を作成したい。

(5) 倫理委員会

構成

委員長：足立 智孝

委員：深谷 智恵子、休波 茂子、石川 健二、
満田 稔（大学外委員）（平成 24 年 9 月～）

事務担当：木内 千津子

会議開催状況

開催回数：8 回

審議事項・活動内容

1. 人権委員会規則の修正
2. 大学外委員の選定
館山人権擁護委員協議会から満田稔氏（人権擁護委員・鴨川市在住）の推薦を受け委嘱
3. 人権委員会の活動内容の確認
4. 亀田医療大学ハラスメント防止体制の整備
 - 1) ルール作り
 - (1) 亀田医療大学ハラスメント防止に関する細則作成
 - (2) 亀田医療大学ハラスメント相談員対応マニュアル作成
 - (3) 亀田医療大学ハラスメント防止と対応についてのガイドライン作成
 - 2) 相談体制の整備
 - (1) ハラスメント相談員の委嘱
深谷智恵子教授、小幡光子教授、大石昌也准教授、足立智孝准教授に委嘱
 - (2) 窓口の設置
 - (3) 相談員研修
足立相談員が、「パワハラ・セクハラ防止対策セミナー」（(株) ヒューマン・クオリティ主催）を受講（2012 年 8 月 6 日）。
 - 3) 教育・啓発活動
 - (1) 教職員対象のハラスメント防止研修の実施（2012 年 9 月 12 日）
 - (2) 学生対象のハラスメント防止教育の実施（2012 年 10 月 1 日）
 - (3) ハラスメント防止リーフレットの作成・配布
5. ハラスメント相談に対する個別対応

今後の対応・課題等

ハラスメント教育・啓蒙活動の継続的かつ定期的な実施

ハラスメント相談体制の更なる整備

(6) 研究倫理審査委員会

構成

委員長：小幡 光子

委員：吉川 一枝、新居 富士美、足立 智孝、佐久間 夕美子

事務担当：(松下 泰久)、平川 弘一

会議開催状況

1. 研究倫理審査に関する検討委員会：6回
2. 研究倫理審査委員会：3回

審議事項・活動内容

1. 研究倫理審査に関する検討委員会
 - 1) 委員会活動の名称・内容の見直し *研究倫理審査委員会との区別
 - 2) 研究倫理審査委員会の規定策定、構成員の選出
 - 3) 研究倫理審査手続き、審査書類等の作成
 - 4) 研究倫理に関する研修会の開催 (H25年3月7日)
2. 研究倫理審査委員会
 - 1) 3件の申請の審査承認
 - 2) 上記申請の1件の研究変更の審査承認

特記事項 (今後の対応・課題等)

H24年度に、研究倫理審査委員会の発足等、研究倫理審査体制はほぼ整備できた。
今後は、運営の中で、必要に応じて見直しを行うとともに、引き続き、学内の研究に関する倫理意識向上のため、定期的な研修会を開催していく。

(7) 保健衛生・安全管理委員会

構成

委員長：深谷 智恵子

委員：大石 昌也、工藤 由美、栗栖 千幸（10月から）、渡邊 八重子、川井 文子（7月まで）、間宮 庄治、濱崎 千都世

会議開催状況

開催回数：10回

審議事項・活動内容

学生の健康管理と防災に関する事項を検討し、規則やマニュアルを作成して実施した。

学生の健康診断、健康教育、健康相談、学生カウンセラーの相談窓口の設定、感染症予防対策、ワクチン接種などを実施した。

秋冬に流行のインフルエンザ、ノロウイルス感染に関しては、学内にウイルスを持ち込まないように、学生への健康教育、衛生教育、さらに感染者出現時の対策マニュアルの作成等を行って対応した。

インフルエンザに関しては、全学生がワクチン接種を受けた。1月に1名のみインフルエンザと診断を受けたが他に感染者はなく流行することはなかった。

出来るだけ早く体調を崩している学生を見出すために、学生の発熱等の自己申告、授業開始前に体調確認などを実施した。各自体温計を購入させ毎朝熱を測ることを奨励した。

防災対策においては、マニュアルの作成、鴨川安心メールへの登録などを実施、地域と連携し津波避難訓練、消防署に依頼し、火災避難訓練などを実施した。

(8) 教務・カリキュラム委員会

構成

委員長：休波 茂子

委員：深谷 智恵子、小幡 光子、吉川 一枝、米林 喜男、石川 健二

事務担当：碓井 豊一

会議開催状況

開催回数：13回

審議事項・活動内容

1. 教務関連

1) 前期・後期ガイダンスの実施

2) 履修登録の実施

(1) 履修登録方法の改善

(2) 履修の特例(「再履修」と「再受験」)に関する内規作成

3) 中間・定期試験、再試験の実施

4) 成績評価と単位認定

5) 非常勤講師による授業への対応

(1) 非常勤講師への対応

(2) 新非常勤講師委託に伴う留意事項の作成

(3) 平成 25 年度新非常勤講師の変更と確保

英語 I (追加)、英語 III、看護英語、経済学、オルターナティブセラピー、

中国語 I・II

6) 平成 25 年度学生便覧作成 (修正)

7) 平成 25 年度シラバス作成 (修正)

8) 平成 25 年度時間割の調整と作成

9) 科目等履修生・聴講生の科目の検討

10) 平成 25 年度学年歴の検討

11) その他

・学生の授業態度への指導

・講義室などの授業環境への対応

2. カリキュラム関連

1) 基礎ゼミナール I・II の実施

2) 基礎ゼミナール III の検討

3) 基礎ゼミナールの検討（今後に向けて）

(9) 臨地実習委員会

構成

委員長：休波 茂子

委員：深谷 智恵子、小幡 光子、吉川 一枝、新居 富士美、工藤 由美、
久保 幸代、栗栖 千幸

事務担当：碓井 豊一

会議開催状況

開催回数：8回

審議事項・活動内容

1. 各領域の看護学臨地実習の方法（ローテーションなど）の検討
2. 亀田医療技術専門学校との実習施設（亀田総合病院）の調整
平成25年度基礎看護学実習に向けて
3. 看護学臨地実習共通指導要項の作成
4. 実習調整会議（亀田医療大学—亀田医療技術専門学校—亀田総合病院看護部）
5. 実習環境

今後の対応・課題等

平成25年度は開学して初めての看護学臨地実習「基礎看護学臨地実習」が行われる。学生が効果的な実習を行えるように、実習施設との連携、実習環境の整備などが必要である。また平成26年度の領域別看護学臨地実習に向けての準備（亀田医療技術専門学校との調整、施設との打ち合わせなど）も行っていかなければならない。

平成25年度の課題を以下の内容とした。

- (1) 実習調整会議（亀田医療大学—亀田医療技術専門学校—）の開催
- (2) 円滑な基礎看護学臨地実習
- (3) 実習環境（亀田総合病院）の整備
- (4) 看護学臨地実習共通指導要項の見直しと修正
- (5) 看護学臨地実習による看護実践能力の評価の検討
- (6) 平成26年度「領域別看護学臨地実習」に向けての準備
- (7) 平成27年度「地域看護学実習」「在宅看護学実習」「看護の統合と実践実習」「選択科目実習」に向けての準備

(10) 学生委員会

構成

委員長：吉川 一枝

委員：深谷 智恵子、大石 昌也、工藤 由美、栗栖 千幸、渡邊 八重子、
石川 健二

事務担当：濱崎 千都世（松村 広典）

平成 24 年度目標

学生委員会を軌道に乗せ、学生支援に関する様々な課題について検討し実施する。

会議開催状況

原則、月 1 回の開催とし、5 月に一度臨時会議を開催した。

月	実施内容
4 月	新入生オリエンテーション (4/6) 奨学金説明会 (4/10) 鴨川警察による防犯指導 (4/12) 第 1 回学生委員会 (4/16) 新入生歓迎会 (4/23) 鴨川市大学入学奨学金交付式 (4/24)
5 月	第 2 回学生委員会 (5/7) 学生支援機構奨学金推薦者選考 (5/7) 臨時学生委員会 (5/24)
6 月	第 3 回学生委員会 (6/6) 千葉県保健師修学資金貸与希望者選考 (6/) 学生食堂請負業者説明会 (6/8) 学生食堂ヒヤリング (6/22)
7 月	第 4 回学生委員会 (7/4) 鴨川警察による夏の交通安全指導 (7/23) 第 5 回学生委員会 (7/25)
8 月	夏休みの注意 (8/8) 南房総地域「中学生・高校生との交流会」(8/22)
9 月	第 6 回学生委員会 (9/26)
10 月	後期ガイダンス (10/1) 第 7 回学生委員会 (10/16)

11月	大学祭（11/3・4） 第8回学生委員会（11/13） 性教育講演会（11/28）
12月	学生便覧の検討 第9回学生委員会（12/11）
1月	第10回学生委員会（1/15） マリエモアナA棟業者説明および視察（1/24） 学生食堂試食会（1/31）
2月	第11回学生委員会（2/12）
3月	第12回学生委員会（3/12）

審議事項・活動内容

1. 入学時のオリエンテーション
2. 学生指導・相談に関すること
3. 学生の自治活動、課外活動に関すること
4. 奨学金に関すること
5. 学生の表彰・懲戒に関すること
6. 学生の経済的支援に関すること
7. その他学生支援及び福利厚生に関し必要なこと

対応事項・課題

次年度の課題

1. 学生委員の役割分担の検討
2. 学生ガイダンスの実施（前期・後期）
3. 学生自治会活動の活性化
4. 課外活動場の確保
5. 学生専用住宅居住者へのガイダンスの実施
6. 学生専用住宅施設管理に関する外部委託
7. 地域の行事等への参加（シーフェスタ他）
8. 通学路防犯灯の整備
9. 大学環境（校庭）の整備改善
10. 学生会館使用規定の検討
11. 学生生活実態調査の実施
12. チューター制の評価

(1 1) 就職支援・国家試験対策委員会

構成

委員長：深谷 智恵子

委員：久保 幸代

会議開催状況

開催回数：1回

審議事項・活動内容

1. 委員会規程

委員会規程の作成

2. 国家試験対策

2年次オリエンテーションで25年度の国家試験対策を説明する

今後の対応・課題等

1. 就職支援

- ・就職支援・相談室（コーナー）設置について：病院や大学院からの募集要項やパンフレット、掲示物のコーナー。学生からの相談窓口等。
- ・就職支援方法の検討
- ・就職支援担当者について

2. 国家試験

- ・学生による国家試験対策委員について
- ・模擬試験：試験回数、時期、業者の選定、学生への説明等
- ・学生への国家試験対策の動機付けと支援方法

(12) FD・ユニフィケーション支援委員会

構成

委員長：小幡 光子

委員：新居 富士美、渡邊 八重子、久保 幸代、石川 健二

事務担当：平川 弘一

会議開催状況

1. FD・ユニフィケーション支援委員会：13回
2. 看護部との連絡会：5回
3. ユニ連絡会：2回（うち1回は教員の臨床での兼業制度についての人事部との検討会）

審議事項・活動内容

1. 亀田グループ3法人のユニフィケーション連絡会を立ち上げ協定書を交わし、交流のルールを決定。
2. 特に関連の深い看護部と大学一病院看護部ユニフィケーション連絡会を定例会議として開催、交流の窓口を決定し連携の仕組みを整えた。

《主な審議内容》

- 1) 看護部との具体的な連携内容と計画について検討
- 2) 科目等履修生、聴講生制度を臨地職員が活用できるよう優遇制度の整備
- 3) 教員の臨床での看護実践について、人事交流内規及び手続きを策定
3. ユニフィケーション活動のための具体的な手続きを定め組織化、実績把握ができるよう整備

*H24年度実績については別紙参照

4. FD研修会の企画・実施

- 1) カリキュラムワークショップの開催（9/12,13. 参加人数：延べ27名）
- 2) 人権に関する研修会（人権委員会と連携 9/12. 参加人数：23名）
- 3) 科研説明会①「科研費申請の実際（研究計画書作成ポイント、他）」（10/3. 参加:10名）
②「科研費の動向、他」（10/11. 参加:20名）
- 4) 研究倫理講習会（研究倫理に関する検討委員会と連携 ‘13. 3/7. 参加人数：14名）

今後の対応・課題等

大学設置初年度であり、委員会組織を整えつつ、その都度課題解決を行ってきた。

H25 年度から本委員会の研究支援にかかわる業務は、新たに発足する研究支援委員会が担うこととなった。

H26 年度は、FD とユニフィケーションも 2 つの委員会に分離する方向であるため、規程の見直しと新たな規程（案）を策定することとなる。そのために、それぞれの活動内容を整理し、各委員の役割を定め、充実を図っていく。

3) 教員オリエンテーション

平成 24 年 4 月 9 日 (月) 9 時～15 時、4 月 10 日 (火) 10 時～12 時

全教員 職務関連 職務規定

研究費の使用 (物品の請求など)

施設設備

財務関連

教学関連 授業の変更、掲示、成績評価、基礎ゼミなど

学生生活の支援

委員会

4) 教職員連絡会

理事長と教員、事務職員との意見交換、懇談を通じて情報を共有する場として 2 か月毎に開催。

開催状況

平成 24 年 10 月 4 日 (木)、12 月 21 日 (金)、平成 25 年 3 月 12 日 (火)

5) 外部団体への加盟

一般社団法人 日本看護系大学協議会

一般社団法人 日本私立看護系大学協会

12. 財務

平成24年度収支予算は、平成24年3月8日開催の評議員会及び理事会において議決、その後平成24年11月7日開催の評議員会及び理事会において収支補正予算を議決、これに沿って適正執行した。

特に平成24年度においては、設置財源上の事情等から暫定措置として4階講義室を学生用食堂及びロッカー室に転用したが、学生の学修環境の改善向上を図るため、補助金及び寄付金等の精力的確保に努め、設置財源（当初1,562百万円、第1回変更協議後2,326百万円）の更なる拡充を図り、①「学生会館（コモンズ鉄蕉館）」の新営等の施設拡充、②実習備品等の拡充、③開設年度経常経費の拡充等を図った。

この結果、（開設前年度から開学2年度目までを対象とする）設置財源は、2,326百万円（第1回変更協議後）から3,211百万円（平成24年度末時点）となった。

（別添資料（様式4号その1（経費の見積り及び資金計画を記載した書類）及びその4（設置経費及び経常経費の財源の調達方法を記載した書類）参照。）

なおこの間、会計監査人及び監事の会計監査（23年度決算監査、24年度期中監査）を受け、適正報告（意見）を得るとともに、会計監査を通じて、監事・会計監査人・内部監査室長と理事長・学長・事務局長・財務部長等との間で意見交換を行う等して意思疎通を図った。

また執行に当たっては物品請求手続き、旅費請求手続き、教員研究費規程等を定め、適正手続の確立に努めた。

1) 施設・設備の拡充

(1) 学生会館（コモンズ鉄蕉館）の新営等

修学環境充実のため、大学構内（屋外グラウンド奥）に新営

「理事長・学長・財務統括部長等、設計士、請負業者等」で構成する総合定例会議を毎月1回程度開催して進捗管理の適正を図るとともに、「財務統括部長等、設計士、請負業者等」で構成する定例会議を開催した。

また完成後、屋上は、校舎本館屋上同様、鴨川市の避難ビルとして震災等発生時に開放、地域貢献に資することとした。

着工：平成24年7月 竣工：平成25年3月

平成25年度入学式から順次供用開始

建物構造：鉄筋コンクリート造4階建		延床面積：2,353 m ²
1階	学生食堂（145席）	
2階	ロッカー室、自治会室、部室等	
3階	多目的室（3室）演習室（6室）	
4階	多目的ホール（384席）・・・名称：ミズキホール	

(2) 学生食堂の開始準備

食堂の運営は数社によるプレゼンを経て、鴨川市商工会女性部有志で組成した「鴨川マザーズ企業組合」に運営委託することとし、試食会を経て、愛称及びロゴを学生から募集、愛称を「亀ママキッチン」とした。

(3) その他

- ・駐輪場の整備、教職員用駐車場の拡充等を行った。
 - ・設備整備として実習備品の整備、IT基盤整備、講義室什器等の拡充を図った。
- これらの結果、平成24年度末における設備整備概要は、別添資料のとおりとなった。

2) 予算収支等

財務(予算収支)概要については、学校法人鉄蕉館として、平成24年度事業報告書、平成24年度事業計画書等を通じて、開示(HP掲載及び事務所備え付け)しているが、亀田医療大学の平成24年度収支概要(結果)は以下のとおりである。

(1) 資金収入

資金収入は以下のとおりである。特筆すべきは多岐にわたる法人及び個人からの寄付金収入235百万円及び補助金収入(千葉県156百万円、安房郡市100百万円、夷隅郡市76百万円)であり、寄贈者及び関係地方公共団体にはこの場を借りて心より感謝したい。寄付者の意向及び補助金交付要綱に従って学生会館新営財源、設備拡充財源並びに経常経費拡充財源等として有効利用、学生満足度の向上に資することができた。

科目	金額	備考
学生生徒納付金収入	153 百万円	
寄付金収入	235 百万円	
補助金収入	333 百万円	千葉県、安房郡市、夷隅郡市
借入金等収入	200 百万円	
上記以外の収入	24 百万円	補助活動収入(寄宿料)、入学検定料他
前受金収入	144 百万円	翌年度の学生生徒納付金等
その他の収入	857 百万円	前年度未収入金、預り金等経過勘定他
資金収入調整勘定	△416 百万円	前年度収入の学生生徒納付金、当年度未収入金等
前年度繰越支払資金	465 百万円	
総計	1,995 百万円	

(2) 資金支出

資金支出は以下のとおりである。管理経費支出には一括借上げ学生アパートに係る借料が含まれているため、相対的に大きくなっている。

科目	金額	備考
人件費支出	238 百万円	
教育研究経費支出	84 百万円	教育に要する経費
管理経費支出	65 百万円	総務・経理・学生募集・学生住宅に係る経費
その他の経費支出	6 百万円	借入金返済・利息
施設関係支出	583 百万円	建物、付属設備など
設備関係支出	160 百万円	実験実習器具、事務用備品、什器
その他の支出	715 百万円	前年度未払金、預り金等経過勘定
資金支出調整	△332 百万円	当年度未払金、前年度前払金
総計	1.519 百万円	
次年度繰越支払資金	476 百万円	

(3) 消費収支(計算書)

消費収支は以下のとおりである。いわゆる基本金組入れ制度等は学校法人特有のもので消費収支計算書は、概ね民間企業の損益計算書に相当する。なお帰属収入に占める主たる収入の割合は、学生生徒納付金収入 20.5%、補助金収入 44.6%、寄付金収入 31.6% となった。

科目	金額	備考	帰属収入割合
学生生徒納付金収入	153 百万円		20.5%
寄付金収入	236 百万円	現物寄付含む	31.6%
補助金収入	333 百万円	千葉県、安房郡市、夷隅郡市	44.6%
上記以外の収入	24 百万円	補助活動収入(寄宿料)、入学検定料他	3.3%
帰属収入合計	746 百万円		100%
基本金組入額	△698 百万円		
消費収入の部 合計	48 百万円		
人件費	240 百万円	退職給与引当金含む	
教育研究経費	162 百万円	内減価償却費 79 百万円	
管理経費	74 百万円	内減価所脚費 9 百万円	
借入金利息他	2 百万円		
消費支出の部 合計	478 百万円		
当年度消費収入超過	△430 百万円		
前年度繰越消費収入超過額	774 百万円		
翌年度繰越消費収入超過額	344 百万円		

(4) 貸借対照表

科目	金額	備考
資産	3,320 百万円	
固定資産	2,507 百万円	
流動資産	813 百万円	
負債	789 百万円	
固定負債	319 百万円	
流動負債	470 百万円	
基本金	2,114 百万円	
1号	2,013 百万円	
2号	87 百万円	
4号	15 百万円	
消費収支差額	417 百万円	(民間企業における自己資本)

(5) 財務指標

主な財務指標は以下のとおりであるが、開学初年度であることの特徴が顕著に現れている。

※平成 25 年度以降、分析対象財務指標の拡充及び経年比較等を行う予定。

負債比率	$(\text{総負債} \Delta \text{前受金}) \div \text{総資産}$	19.4%
自己資本構成比率	$\text{自己資金} \div \text{総資産}$	12.5%
流動比率	$\text{流動資産} \div \text{流動負債}$	173.3%
固定長期適合率	$\text{固定資産} \div (\text{固定負債} + \text{自己資金})$	315.0%
前受金構成比率	$\text{現金預金} \div \text{前受金}$	330.5%

3) その他(財政基盤の強化)

私立大学に対するいわゆる経常経費補助(国庫補助)は、制度上、完成翌年度からとされており、併せて完成年度までの間は施設・設備整備補助申請も対象外のものが多い。

平成 24 年度(開設初年度)の学生生徒納付金収入は完成年度の 4 分の 1 であること等から、制度上、開設年度の経常経費は設置財源で賄うこととされている。このため、平成 24 年度においては、近隣地方公共団体の理解並びに多岐にわたる法人・個人のご理解ご協力を背景に、計画的、精力的な資金調達に努めた結果、設置認可時点及び第 1 回変更協議後の設置財源を超過達成、設置認可時及び第 1 回変更協議時点における設置計画を確実に履行した上で、更に施設等の充実を図り、もって学修環境の更なる拡充を実現した。

平成 25 年度以降も引き続き寄付金等の確保に努めるとともに、堅確な定員の確保、科研費等の競争的資金の確保、資金調達の多様化等を通じて本学の財政基盤の安定に資し

ていくとともに、より費用対効果に優れた予算執行(経費節減を含む) 並びに事務の簡素
合理化・改善を図りステークホルダーの期待に応え、U S Rに努めて行くことが肝要と
認識している。

13. 教職員名簿(平成25年3月31日現在)

1) 教員

教員グループ	職名	氏名	備考
	学長	クローズ 幸子	
基礎・専門基礎	教授	米林 喜男	図書館長
	准教授	足立 智孝	
	准教授	大石 昌也	
基礎看護学	教授	休波 茂子	
	講師	佐久間 夕美子	
	講師	渡邊 八重子	
	助手	臼井 綾子	
成人・老年看護学	教授	小幡 光子	
	教授	深谷 恵子	副学長
	准教授	新居 富士美	
精神・在宅看護学	講師	栗栖 千幸	
ウィメンズヘル ス・小児看護学	教授	吉川 一枝	
	講師	久保 幸代	
マクロ看護学	講師	工藤 由美	

2) 事務職員

所 属	職 名	氏 名	備 考
	事務局長	石川 健二	
管理部	部 長	同上	兼務
管理部 総務課	課 長	同上	兼務
	係 長	瀧口 真穂	総務担当
		木内 千津子	人事担当
		平川 弘一	研究担当
		藤枝 悦子	秘書担当
	係 長	羽田 洋一	広報担当
		小原 美乃里	広報担当
管理部 学務課	課 長	石川 健二	兼務
	係長代理	碓井 豊一	教務担当
		宮本 聖子	入試担当
		濱崎 千都世	学生担当
		松村 広典	〃
		立野 幸子	図書館司書
財務部	財務部長	堀 強	
財務部 財務課	財務課長	同上	兼務
	課長補佐	間宮 庄治	施設担当
	課長補佐	庄司 良幸	予算・執行・決算担当
		久古 博之	予算・執行・決算担当

学校法人 鉄蕉館

2012（平成 24）年度

亀田医療大学年報

平成 25 年 5 月 31 日発行

亀田医療大学（編集・発行）

〒296 - 0001 千葉県鴨川市横渚 462 番地

TEL : 04 - 7099 - 1211（代）

FAX : 04 - 7099 - 1327